

令和8年度小松市立稚松小学校 学校評価2

切学校評価	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>自他を尊重し 互いに認め合い 高め合う児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解が不可欠であるので、教員アンケートで「日頃から、児童の姿や変化にアンテナを高くし、児童理解に努めているか。また、児童理解を通して見つけた課題に対して、生徒指導の4つの視点を生かして、学級・授業づくりに取り組んでいるか。」という質問に対して、肯定的回答90%以上を目指す。 ・学習指導と生徒指導の一体化を図るために、児童アンケートで「わかまつトークをした事で、授業でも友達と話しやすくなりましたか。」という質問に対して、肯定的回答90%以上を目指す。 		
保健体育	<p>規則正しい生活・正しい姿勢の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活において、児童自身が規則正しい生活習慣を維持する一助として、自ら運動に励むことができるようにする。そのために、一校一プランを中心に運動が苦手な児童も、得意な児童も一丸となって取り組める機会を提供する。 ・児童アンケートで「運動することが好き」という質問に対して、肯定的回答90%以上。 ・学校生活の中で、児童が姿勢に気を付けて生活できるよう、日常的に姿勢を意識する機会を設け、児童自らが姿勢に関心を持てるようにする。 ・児童アンケートで「姿勢に気を付けて生活している」の肯定的回答90%以上 		
教育相談	<p>「チーム稚松」として情報を共有、組織的な対応の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校につながりそうな登校渋りを「ちょっと気になるカード」等を使い、初期段階から情報共有する。必要に応じて早期にケース会議を行う等、組織的に対応する。 ・教員アンケートで「担任一人が抱え込まず、日常的に情報を共有し組織的に対応している」と感じる割合が8割以上。 		
GIGA推進	<p>ICT活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業でICTを活用した授業の実践を推進していく。そのために、共通シートを用いて、実践を記録していく。学校研究とも関連付けながら、授業のねらいに基づいて授業を検討、実践し、授業の評価まで行う。教員間での実践共有の時間も設ける。 ・児童がICTを活用した学習方法を選択したときに、使いこなせる技能が身につけているようにするために、スキル表を用いて児童の技能を高めていく。 		
道徳教育	<p>特別の教科道徳の授業を中心とした道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や学校公開日などの機会に年に1回以上、保護者に向けて道徳の授業を公開する。 ・授業改善を図り、道徳教育の充実につなげる。 		
読書教育	<p>読書活動の活性化と質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりさんによる読み聞かせ活動を月に一回行い、本への興味を高める。 ・学年に応じた本の紹介を行い、読書の幅を広げる。 ・自分にぴったりの本が選べるように行数シールを活用する。 ・朝読書として「読んでみて文庫」に取り組む。各学期の達成率は80%とする。 ・年に4回、家族読書に取り組み、家庭での読書を推進する。 		
特別支援教育	<p>個に応じた支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、校内委員会を開いたり、専門員派遣制度を利用したり、市の教育研究センターや医療機関につなげたりする。 ・個に応じた教育支援を行い、学習や生活への抵抗感を少なくし、充足感が得られるようにする。 		
家庭・地域の連携	<p>地域の特性を生かした教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材・地域教材を活用して調べたり学んだことを他者へ発信したりする探究学習を積極的に推進する。そのことを通して、地域を理解し、地域を誇りに思う心情を高める。 ・地域人材。地域教材の活用に努めている教員80%以上。 		

学校関係者評価	
---------	--